

フリーの映画監督としての生き方 ～父と僕の日本映画史～

～・第2回講演会～

子どもの頃から撮影所を遊び場に、育って来ました。
父・深作欣二の背中を追い、映画監督としてデビューしてもう十六年。
邦画も日本映画界も、すっかり変わってしまいましたが、
僕たちは映画作りの中で何を得て、何を失ってきたのか。
「仁義なき戦い」から「バトル・ロワイアル」に至るまで、
親子二代、七十年に渡る日本映画史と戦後史を重ねて振り返りながら、
混迷の現代を、フリーランスとしていかに生きてゆくか、
もう一度、見つめ直したいと思います。

講演者 深作健太氏 〈映画監督・舞台演出家・脚本家〉

とき 2019年11月9日(土)

ところ 成城大学7号館007教室(4階)

本日の
予定

14:00～15:25	講演
15:25～15:45	休憩
15:45～16:00	参加者との交流

深作 健太 (ふかさく けんた) 氏 プロフィール

1972年、東京都生まれ。成城育ち。幼稚園から大学まで、成城学園に通う。
成城大学文芸学部国文学科卒業。
東映大泉撮影所にて〈戦隊シリーズ〉〈Vシネマ〉など様々な現場に助監督としてつく。
2000年、父・深作欣二と共に、脚本・プロデューサーとして映画「バトル・ロワイアル」を制作。
2003年、撮影中に逝去した父の跡を継ぎ、「バトル・ロワイアルII【鎮魂歌】」で、監督デビュー。
近年では演劇から、念願のオペラまで、様々なジャンルを演出している。



主な映画作品は、05年『同じ月を見ている』、06年『スケバン刑事』、11年『僕たちは世界を変えることができない。』、13年『夏休みの地図』

主な演劇作品は、10年『罅』、13年『渴いた太陽』、16年『夜のピクニック』、『スルース～探偵～』、15年オペラ『ダナエの愛』、18年オペラ『ローエングリン』。

他に、橋爪功氏や、人気声優との〈朗読劇〉など多数。

19年12月には『里見八犬伝』明治座公演、20年9月には、新国立劇場にて二期会オペラ『フィデリオ』を演出予定。

フリーの映画監督としての生き方 ～父と僕の日本映画史～

◆はじめに 成城学園で育って 〈個性尊重〉が一生を決めた！

◆〈深作欣二 篇〉 ～ 父という人間 父としての映画監督 ～

A. 1945年 水戸の軍国少年 すべてはここから始まった！

B. 1950～60年代 〈映画〉と青春時代

C. 1970年代 やくざ映画の監督として 『仁義なき戦い』



「仁義なき戦い 完結篇」(1974年)

◆〈深作健太 篇〉 ～ 僕という人間 ～

A. 1972年 誕生 そして、父は家にいなかった

B. 1970～80年代 父の映画に救われた僕 父と角川映画、そして女性

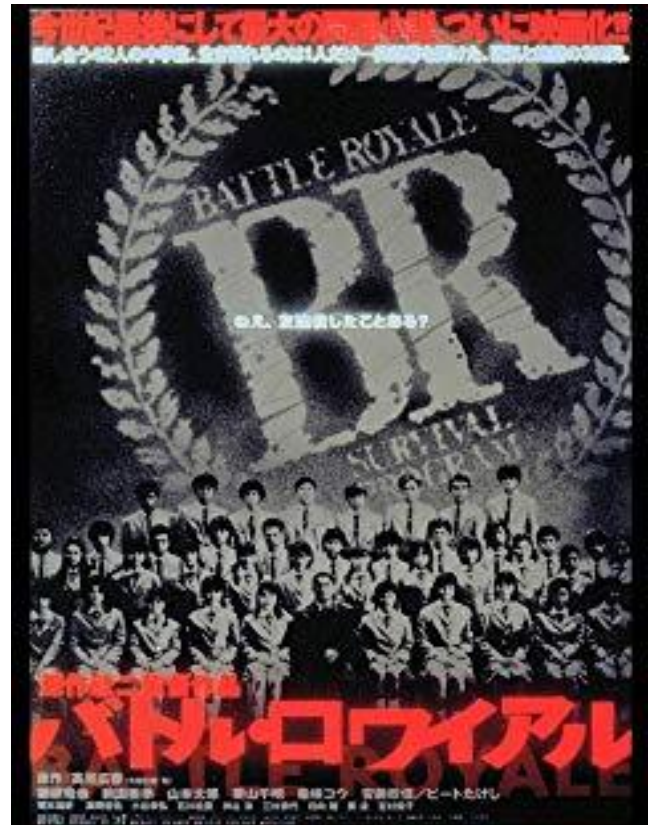
C. 1990年代 僕の修業時代 日本映画の〈世紀末〉に生きて

◆◆ 〈親子タッグ 篇〉 ～ 『バトル・ロワイアル』という日本映画～

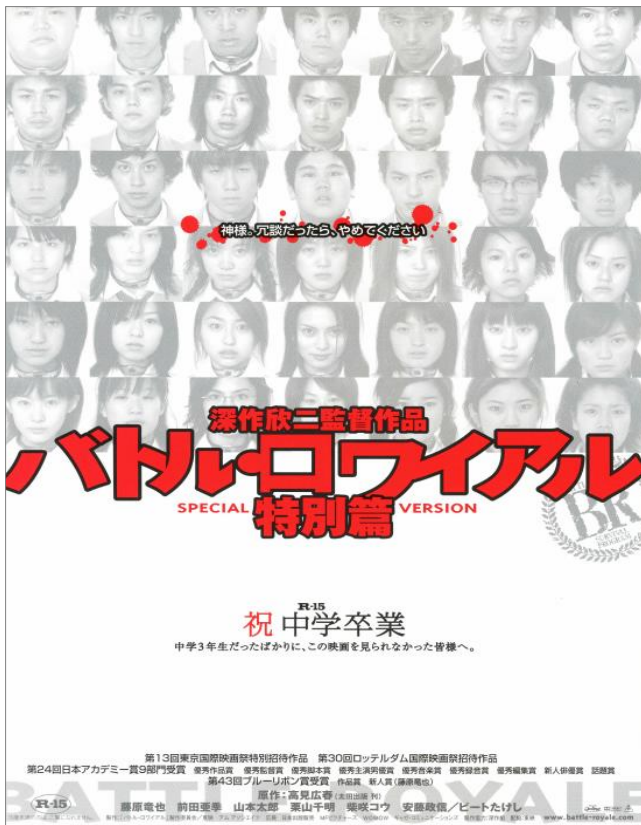
A. 1999年 いかに一本の映画が作られるか？

B. 2000年 何が新しく、
何が過激だったのか？
〈規制〉について

C. 2003年 父との別れ
～ 映画監督として死ぬという事



「バトル・ロワイアル」(2000年)



「バトル・ロワイアル【特別篇】」(2001年)

◆ 〈深作健太 篇 ふたたび〉 ～ 僕という映画監督 ～

A. 2000年代 フリーの映画監督として 父の亡霊

B. 2010年代 フリーの演出家として 夢は叶う

C. そして、先の見えない時代を楽しむために



映画監督になる事を決意した5才の時。
父と母(女優・中原早苗)と。

ご清聴ありがとうございました。



成城大学生涯学習支援事業 「成城 学びの森」

■ コミュニティー・カレッジ

■ オープン・カレッジ

成城大学 「成城 学びの森」事務局

〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20

成城大学企画調整室（大学2号館2階）

TEL. 03-3482-9031/FAX. 03-3482-9467

お問い合わせ 月～金 8:30～16:30

E-mail: manabi@seijo.ac.jp

土 8:30～13:00

URL: <http://www.seijo.ac.jp>